

読図資料

1. 地図の種類

- (1) 1/25,000 地形図（国土地理院発行）…詳細な地形が分かる
- (2) ガイドブック（昭文社などが発行）…コースタイムや小屋、地名が分かる
- (3) 概念図…大まかな地形が分かる

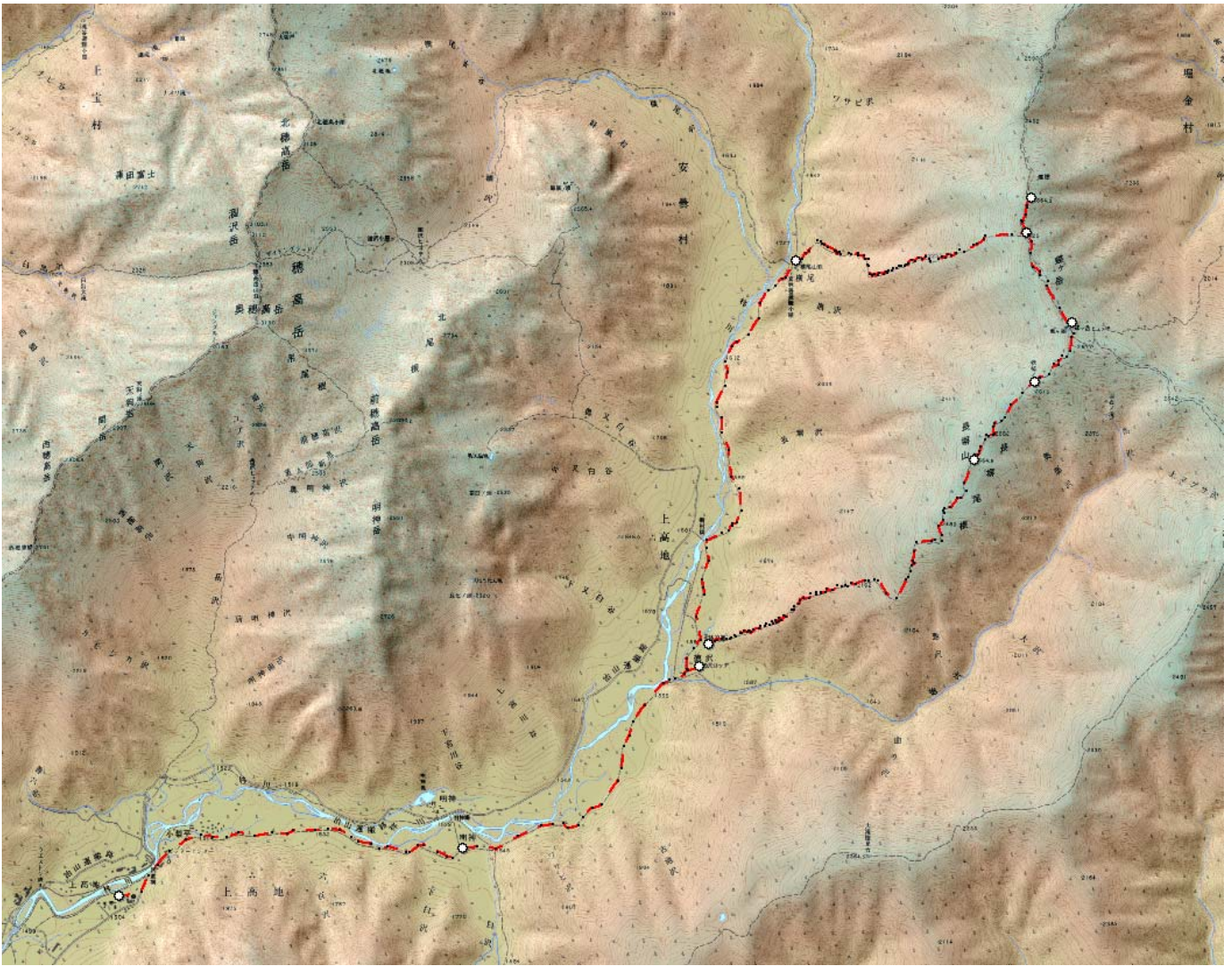
2. 地図の見方

- (1) 磁北の方向と実際の北は違う。蝶ヶ岳付近は、西偏約7° 0′
- (2) 各種記号……地形図を参照
- (3) 尾根と谷……山頂など標高の高い側から見て、等高線が凸になっている部分が尾根、凹になっている部分が谷

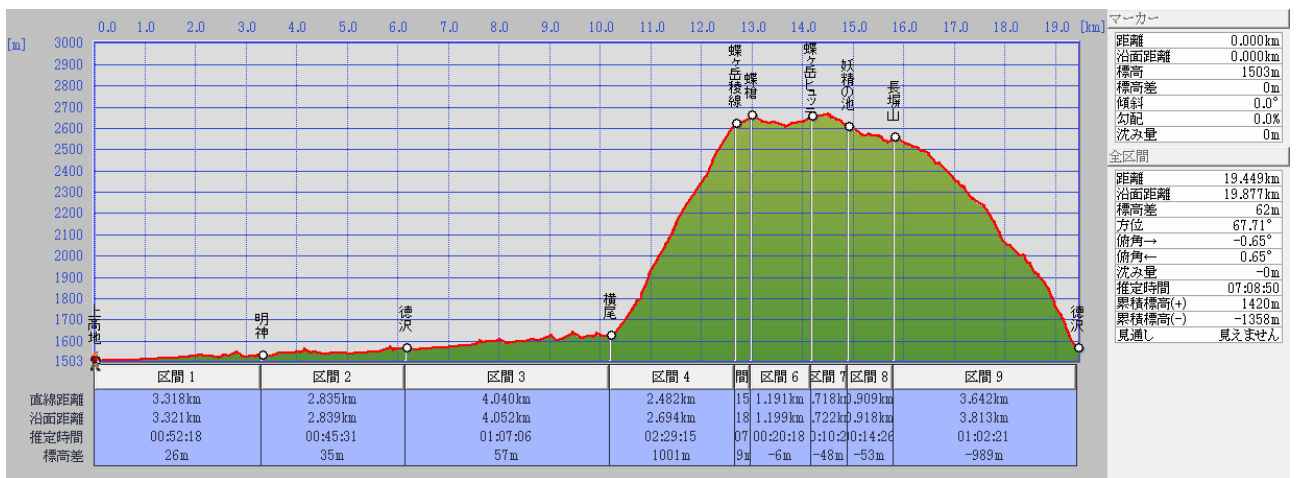


- (4) 傾斜……等高線が密になっている部分が急、疎になっている部分が緩傾斜地

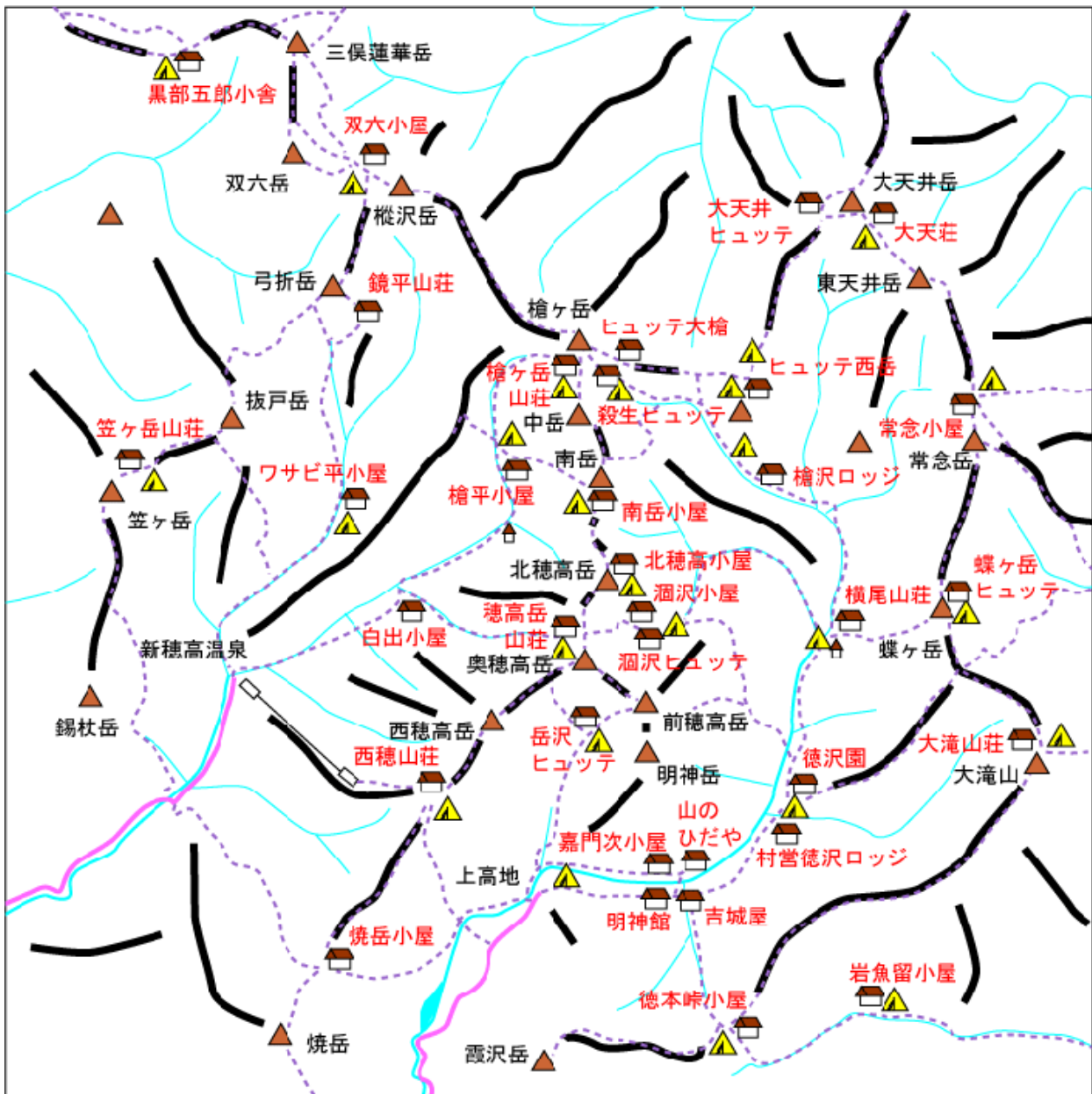
★蝶ヶ岳周辺地形図



★登山道断面図



★蝶ヶ岳周辺概念図



(5) 距離……1/25,000 地形図では、地図上の1 cmが、実際の250mで、4 cmが1 km。

(6) 等高線…1/25,000 地形図では、太い線が50m毎、細い線が10m毎。

3. 現在地の確認（地図を利用する最も大きな目的）

(1) 登山口の確認

(2) 登山道の傾斜や周囲の地形の確認。登山道が尾根上なのか、谷筋なのか、斜面を横

- 切っているのか、急傾斜のところか、緩傾斜のところか？
- (3) 地形図上のポイント（山小屋や山頂、池など）から何分歩いたか？
 - (4) 対岸などに見えるピークなどの標高から現在地の標高の目安を付ける

4. これから向かうコースの確認

- (1) コンパスと地図を使って、方角を確認する
- (2) 地図からこれから登る方向の傾斜を確認する

5. 道に迷ったら

- (1) できる限り早く、はっきりした道まで戻る
- (2) 登り返すことになっても、躊躇しない
- (3) 道が分からないまま、谷に下ることは絶対にしない。（谷は滝があったりして危険が一杯）
- (4) どうしても正しい道が見つからない時は、体力の限界まで行動せず、ビバークをして救助を待つ。その場合、暖かい衣類や雨具を着込み、食料は数日間、食べつなげるよう少しずつ食べる。
- (5) 見つけてもらえるよう、落ち葉などを燃やすことも有効だが、山火事には要注意

以上